

1 本計画の基本的な考え方（本編 P13～）

本計画は、第2章の産業ミュージアム基本構想に基づき、（仮称）産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）で実施する事業の方向性等について定めることで、基本理念で掲げる「板橋の産業ブランドを向上させるとともに、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点」を整備することを目的として策定する。区が持つ地域資源を生かしながら、多様な組織が協力して新しい価値を生み出し、都市全体の魅力を高める「創造都市」の実現といった視点も視野に入れながら、整備を進めていく。

2 ソフト事業計画（本編 P22～）

江戸時代から近年に至るまで、当地で永く行われてきた「研究」というキーワードに着目し、次の基本的な考え方に基づき、6つのテーマに沿ってソフト事業を展開していく。

（1）ソフト事業を展開していくための基本的な考え方

- ① 当地の歴史を背景とした事業展開
- ② 日々研究・実験が行われ、進化・発展を続ける事業展開
- ③ 多様な主体との共創により、新たな価値が創造される事業展開
- ④ 柔軟に運用が可能な事業展開
- ⑤ デジタル技術を積極的に活用した事業展開

（2）ソフト事業の展開の方向性



日本の産業と科学技術の進展に貢献した地で区産業の技術に触れ、創造力を育む事業



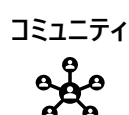
この地ならではの物理・科学の体験を通して、次世代の理系人材を育む事業



産業遺産を保存・展示し、この地の研究の歴史を発信する事業



企業や大学・研究機関等が連携して行う実証実験の拠点としての事業



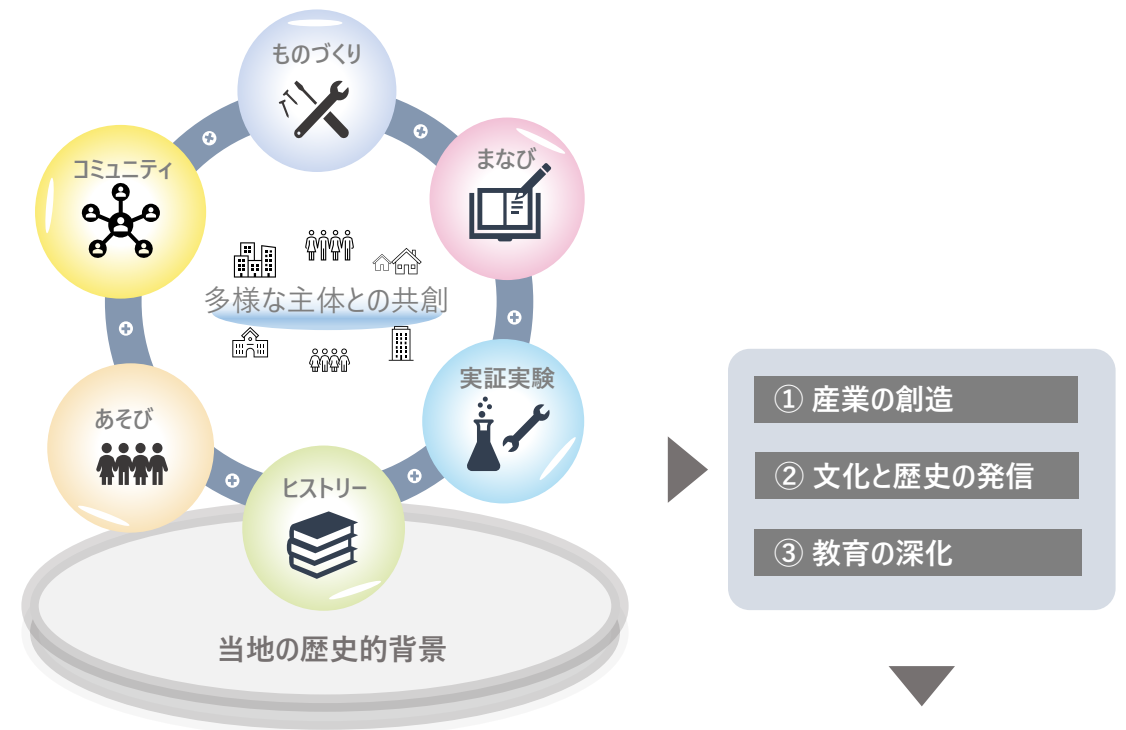
国史跡の空間で「ひと」と「ひと」がつながり、文化が生まれる事業



歴史的価値がある建造物内で、子どもたちがのびのび遊べる事業

◆ 事業展開のイメージ

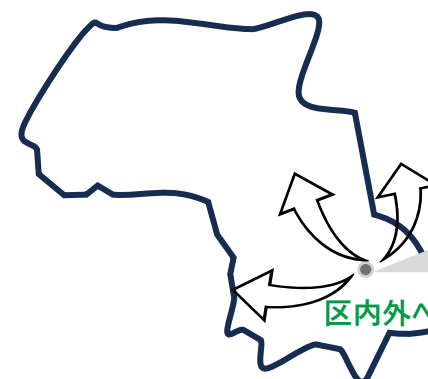
6つのテーマに基づき、多様な主体との共創による事業展開を行うことで、基本コンセプトとして掲げる「創造と知の起点」として社会的価値を生み出し、生まれた価値を区内外へ広げていく。



加賀の歴史に紡がれた、創造と知の起点としての役割を発揮する

- ・ これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来が創造される
- ・ 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく
- ・ 「ひと」と「ひと」とのつながりが生み出され、新たな挑戦がはじまる

創造と知の起点として多様な主体と共創し「社会的価値」を区内外へ広げる



- ◆ 区の産業ブランドの向上
- ◆ 次世代の産業を担う人材や理系人材の育成
- ◆ 区への愛着と誇りの醸成

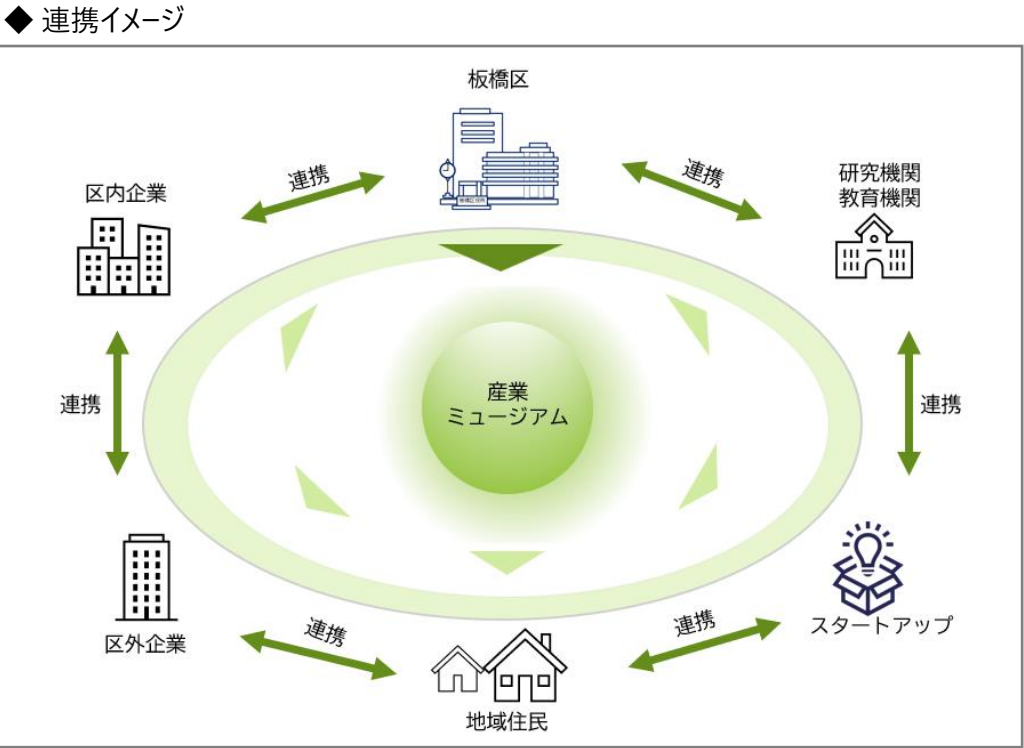
3 施設計画（本編 P39～）

当地の歴史を含めた建造物内の“保存”と産業ミュージアムとしての“活用”を図ることにより、“保存”と“活用”を両立させる。



4 多様な主体との連携による事業運営（本編 P44～）

多種多様な研究が行われてきた歴史を持つ当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきた歴史がある。事業運営にも、その文化を引き継ぎ、産業ミュージアムを通じて、企業、大学や研究機関などの様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値の創造を図っていく。また、加賀エリアをはじめとした近隣の地域や、小中学校、大学等との連携や、ボランティアによる運営への協力等、多様な主体との連携を通じて地域から愛される施設をめざしていく。



5 オープンまでのスケジュール（予定）（本編 P46）

令和7年度	
11月上旬	区民環境委員会報告 「本構想・計画」（素案）について
11月上旬～11月下旬	パブリックコメントの実施
1月中旬	庁議報告
2月中旬	区民環境委員会報告 「本構想・計画」（原案）について
3月下旬	本構想・計画の策定・公表
令和8年度	建造物内部の整備デザイン等の検討
令和9年度～10年度	基本設計・実施設計
令和11年度	整備工事、グランドオープン

○必要な機能の整理

本施設に必要な機能を以下に整理する。なお、詳細な機能要件については、令和8年度以降に実施する、建物内部のデザインや動線の設計等の検討と合わせてさらなる整理を行うこととする。

- ① コミュニケーター機能（学芸員・ボランティア）
- ② 展示機能
- ③ 生涯学習機能（体験・交流機能などのソフト事業）
- ④ 物販機能
- ⑤ 飲食機能
- ⑥ その他共有機能（トイレ、手洗い等）